第 2 回揚輝荘活用検討会　開催概要

テーマ「聴松閣の展示について」
日時：2011 年 10 月 19 日（水）18：30～20：40
場所：揚輝荘伴華楼　1Ｆ応接室
出席者：25 名（事務局含む）
記録作成：エルイー創造研究所
進行：川本直義

　エルイー創造研究所が作成した聴松閣活用・展示計画（案）をもとに意見交換を行った。主な意見は、以下のとおりである。

○　基本的な考え方について
・庭は、徳川園や白鳥公園ほど敷居を高くする必要はないが、雰囲気を壊してしまうような開放の仕方はあまり好ましくない。ただし、有料にしてしまうと気楽に散歩したい人たちは利用しづらくなる。
・祐民のつくったオアシスを味わってもらいたい。ここがオアシスになり、地域につなげていくためにも揚輝荘の魅力アップが大事。
・南庭園は建物を見るための庭園である。

○　南園動線・計画案について（座敷整備前）
・見学者が入場前に滞留できるスペースがあるとよい。
・近隣に配慮した動線計画を考える必要がある。
・最終の受付位置は、座敷と庭園を整備する時に再検討すべき。暫定的に受付は聴松閣玄関で行ない、建物の中を通り庭へ出る動線がよい。
・座敷の整備前でも、受付位置は聴松閣の玄関ではなく提案の位置がよい。
・誰でも自由に庭に入ることができる動線では管理が難しい。

○　2 階企画展示について
・名古屋市が、指定管理者にどの程度入場者数実績を要求するかで企画展の方針も決まってくる。
・メインは、運営団体が 3 ヶ月～半年ほど継続した企画をしていく博物館のような展示をイメージしている。
・指定管理者の企画だけでは、内容の枯渇、偏り、固定化の可能性があり、動員数があまり見込めないので、名古屋市からの入場料等の条件を満たせなくなる可能性が高い。

・持込展示でも、揚輝荘や地域の雰囲気に合うなどよい企画であればよい。ただし、施設管理者が主導しながら企画を精査等していくべきである。
・揚輝荘に来る様々な人に幅広く対応できる展示にすることが大切。
・貸して収益をあげるのではなく、来場者に来てもらうことで収益をあげる場所。

・企画を審査するできるだけ公平な評価機関を組織する（指定管理者、名古屋市、地域の人など）ようにするべき。評価員には責任を持たせて、企画を拒否した場合でも理由を開示できるようにしておくべきである。

○　地階舞踏場の貸出について
・昼間は、管理者が企画したコンサートなどで使用することは賛成だが、貸室にすると部屋の見学に支障となる。夜間は、定期的なコンサートやセミナーを行う（自主事業でも貸し事業でもよい）。

○　1F カフェ兼常設展示について
・自販機ではなく、雰囲気を活かし、揚輝荘のサロンとして人を配置してほしい。
・揚輝荘全体の指定管理者とは別に、テナントを募集することもできるが、業者が入って喫茶を運営することは、経営的に成り立たないのではないか。
・自由スペースであるが、お茶が提供してもらえるという休憩スペースでよい。
・旧居間の暖炉上に、端末を設置して映像を見るスペース、喫茶室とサンルームはおしゃれなティールームしてもよい。
・提供する種類は少なくてよいので、簡単なコーヒーぐらい出せないだろうか。
・2F の読書コーナーの延長で、喫茶コーナーでも読書ができるとよい。
・揚輝荘グッズを販売してはどうか。

＜次回検討会＞
日時：2011 年 11 月 24 日（木）　18：30～
場所：揚輝荘伴華楼　1Ｆ応接室

以上